

2. 中心市街地の活性化

学生と連携した中心市街活性化「たかさき活性剤本舗」

～ 群馬県高崎市 ～



(出所:たかさき活性剤本舗 Part2 HP)

1999年に幕を閉じた「たかさき活性剤本舗」パート1。ここを拠点に学生らは、来街者や商店主のヒアリングを実施した。2000年5月に装いも新たに近所にパート2をオープンした。

(出所:中心市街地活性化 HP)

中心市街地の活性化に向けて、いま全国で様々な活性化策が論議・検討されている。高崎市では、活性化基本計画作成に先立つフィールドをベースとした調査を、高崎経済大学に要請し、学生の行動力とそれを原動力にした地域ヒアリングでの成果から、新たな活路を見出そうとしている。

プロセス 高崎経済大学ゼミに協力を依頼

かつては「お江戸見たけりや高崎田町」といわれた高崎市だが、いまその商店街の衰退・停滞は甚だしい。高崎市は、その活性化基本計画策定にあたって、高崎経済大学横島庄治ゼミに市民・住民・団体ヒアリング等を通じた提言を依頼し、その活動スペースとして空き店舗を活用した「たかさき活性剤本舗」を提供した。1999年のパート1、2000年のパート2を経て、2001年6月に「たかさき活性剤本舗 Part 3」としてリニューアルオープンした。いずれも「住民と一緒に楽しむ街づくり」の推進が基本理念である。

たかさき活性剤本舗 Part 3 活動内容 (2001年~)	
本舗営業時間 每週水、木、金、日曜日 13:00~18:00	
2001.6	たかさき活性剤本舗 Part III開店。
.6	本舗ギャラリーに成田山保育園の園児の絵を展示。
.8	法輪寺保育園の園児の絵を展示。
.10	若葉保育園の園児の絵を展示。
.10	2000年度活動報告書(冊子版)、HONPO iを作成。
.11	明徳幼稚園の園児の絵を展示。
.12	城南幼稚園の園児の絵を展示。
.12	『闇市』開催。
.12	『活性化大作戦 in 高崎』を開催。
2002.2	『地域づくり団体全国研修交流会 群馬大会』に参加。

ポイント ヒアリングから更に多彩な活動へ

パート1（1999年）では、20人の学生が参画し、「たかさき活性剤本舗」を調査拠点に、商店主、市民、団体からヒアリングを実施。2000年のパート2を経て、2001年にはパート3が始まり、それまでの経験をベースに、情報誌「活性化だより」の編集やHP、幼稚園児の絵を展示する本舗ギャラリーの開設、まちづくりシンポジウムや闇市の開催、まちの清掃など、幅広い活動で活性化に直に繋がる様々な仕掛けを展開している。



ゼミを率いる横島庄治教授。元 NHK 解説委員であり、現在は教授職とともに地方自治体を中心とした行政のプレーンとして活躍する（出所：高崎経済大学 HP）



高崎商店街では市民を巻き込んだイベント開催も活発。写真は高崎音楽祭ストリートライブ（出所：関東通産局 HP）

効果 交流が広がり、ポテンシャルも高まる

ヒアリングを通して市民や商店店主と親しくなるなど、「たかさき活性剤本舗」は、商店街・住民・行政のそれぞれを結びつける貴重な役割を果たしている。加えて「本舗」では、同じく学生が参画している早稲田商店街（早稲田大学）や前橋市（群馬大学・前橋工科大学）との交流も図っており、商店街を盛り上げる、これまでにないネットワークを拡大させている。

●ひとこと 継続的な活動として期待

「たかさき活性剤本舗」は、調査結果だけでなく、学生と商店街の交流といった形で期待以上の結果を生み出すことが出来た。しかし、ゼミの教授である横島庄治氏の「継続的な活性化にこぎつけたところは未だ例がない」との言葉から窺えるように、このプロジェクトの真価は一時のイベントではなく、継続的に実施していくか否かにある。

類似事例：早稲田商店街（東京新宿区／早稲田大学生と協力して多彩なまちづくりを実践）

六角橋商店街（神奈川県横浜市／神奈川大学生とともに夜間フリーマーケットを開催）

問い合わせ先

高崎経済大学

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300

TEL 027-343-5417

URL たかさき活性剤本舗 パート3
<http://www1.tcue.ac.jp/home1/honpo/>

好評の商店街オリジナルブランド「とごしぎんざ」

～ 東京都品川区 ～



全長 1600 メートルに約 400 店舗がひしめく戸
越銀座銀六商店街



売れ行き好調の人気商品、純米酒「とごしぎんざ」(出所: 戸
越銀座銀六商店街HP)

品川区の戸越銀座銀六商店街のオリジナルブランド「とごしぎんざ」は、集客減や空き店舗の増加に悩まされてきた銀六商店街が、1999 年から展開している商店街振興策の一環である。すでにその製品 30 数品目、いずれも工夫を凝らした製品で、わざわざ商圈外からも購入客がやってくるほどの人気である。

プロセス 恒久的な集客力を目指して

東京都品川区、戸越銀座商店街の東のはずれに位置する銀六商店街は、駅や幹線道路に隣接せず、最近は商店主の高齢化、空き店舗の増加に直面してきた。そこで考えられたのがイベントのような一時的な活性化策ではない、継続性のある活性化策であり、1999 年に 10 店から成る「オリジナル商品開発委員会」が結成されることとなった。文字通り、商店街の独自商品を開発し PR の目玉にしていこうとするものであり、純米酒を筆頭に、次々と商品数を増やしている。

「とごしぎんざ」商品例

商品名	料金
御酒	1.8L:2300 円・720ml:1200 円
ワイン	赤 720ml:1300 円・白 720ml:1200 円
吟醸酒	720ml:1650 円
サブレ	550~2200 円 (4 タイプ)
マフィン	1000~2000 円 (3 タイプ)
天然酵母パン	一斤:240 円
佃煮	1200 円~

商品名	料金
焼肉のタレ	350g:430 円
目覚まし時計	2000 円
切子グラス	2000 円
消臭剤	200ml:2000 円
うな重	1300 円
携帯ストラップ	200 円
花	2000 円~

ポイント 空き店舗を有効利用

パン屋の「くるみマフィン」、ケーキ屋の「抹茶サブレー」といった自家製品から、肉屋が選んだソース、酒屋が選んだ無添加ワインなど多彩な品揃えを誇る。いずれも「無添加」「エコ」「高品質」といったコンセプトがあり、一般製品にはない特色を持たせている。

これら独自製品は、各店舗はもちろん、商店街に設置された“お休み処”にも陳列されており、そこでは商店街マップ等を設置し、商店街全体の回遊を促している。またペットボトル回収機では、1本につき1円の商店街専用金券と交換し、回収されたペットボトルを廃品利用した商品開発等が計画されている。



休憩所内には情報発信源であるCATVとPCが設置されている(左)(出所:戸越銀座銀六商店街HP)



廃品回収から新商品を開発、地域循環型リサイクルシステムを目指す
(出所:東京都商店街HP)

効果 着実に展開するオリジナルブランド効果

オリジナルブランド第一号の純米酒が、販売開始から6ヶ月で1,500本を売り上げたのを皮切りに、その後に続く商品も総じて好評。土曜、日曜日は来客数が2割以上増加したが、その要因の一つにこのオリジナルブランドの話題性が考えられている。一連の開発を通じ、商店同士の絆も深まり、活気も出ているほか、全国から年間約30団体が視察に訪れるなど“同業者”的な熱い視線が注がれている。

●ひとこと オリジナルブランドは諸刃の剣

商店街オリジナル商品は、成功すれば店や商店街のイメージアップに繋がるが、逆にいいかげんな品質だと評判を下げる「諸刃の剣」である。商品開発にあたっては、入念に開発計画を練り、短期的な収益に走らず、イメージアップなど長期的なメリットを考えていくことが重要である。

類似事例:やまぐち文化発信ショップ (山口県山口市/実験店舗でOB製品販売)

問い合わせ先

戸越銀座銀六商店街振興組合

〒142-0042 東京都品川区豊町1-4-16

TEL 03-3783-0808 FAX 03-3787-8602

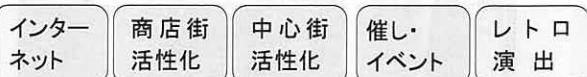
URL <http://www.witch.co.jp/ginroku.htm> E-mail:ginroku@witch.co.jp

2. 中心市街地の活性化

空き店舗利用で活性化「(協) 新潟あきんど塾」

～ 新潟県新潟市 ～

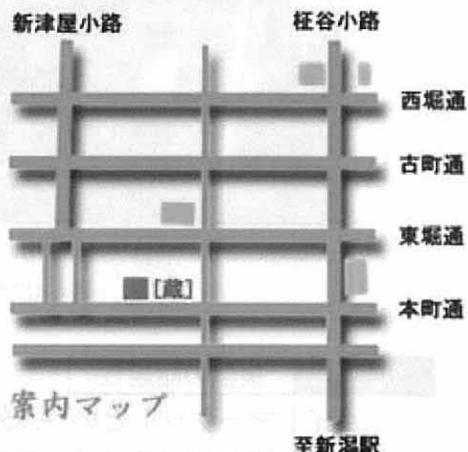
本町通りは露天の市場が並ぶ新潟市の台所であり、その商店街の協同組合である「(協)新潟あきんど塾」は、同時に街づくりの活動団体としても知られている。とくに、古い蔵を利用した「自由空館」にはインターネットカフェなど最新の設備が設置され、「古さ」と「新しさ」のミスマッチが不思議な魅力を作り出している。



プロジェクトの概要

名称	(協) 新潟あきんど塾
場所	新潟県新潟市本町通 6 アーケード内
加盟店数	20店
主な活動内容	自由空館「蔵」の運営 新潟「冬の食の陣」 新潟の情報発信 オンライン「蔵」ショッピング (パソコン教室、徳利の会、本町寄席などの定期イベント)
事業開始	1997年
補助	空き店舗対策補助事業 (新潟県・新潟市)

(出所:「蔵」HPなど)



「新潟あきんど塾」の所在地
(出所:新潟商人「蔵」HP)

プロセス 冬の集客対策「冬 食の陣」のメンバーから発展した

新潟の冬は商店街からどうしても客足が遠のいてしまうため、食材や日用品を扱っている本町通りにとって、冬の集客強化が大きな課題であった。その対策として 1992 年から有志 10 名で始めた「食」のイベントである「冬 食の陣」が好評で軌道に乗り、協同組合「新潟あきんど塾」へと発展していった。1998 年からは県と市の空き店舗対策補助事業（家賃半額補助）を活用して自由空館「蔵」を運営している。

プロジェクトの経緯

年	内 容
1992	「食の陣」開催
1997	(協)新潟あきんど塾設立
1998	空き店舗対策補助事業認定 (新潟県新潟市)

(出所:新潟あきんど塾)

右上:新潟あきんど塾が、開設した多用途空間「蔵」。お米や味噌などの新潟特産物の販売コーナーはじめ、インターネットカフェ、ミーティングルーム等もある

右下:インターネットカフェはビジネスマンに好評

(出所:新潟商人「蔵」HP)



ポイント 本町通りの老舗 20 店が加盟

「(協) 新潟あきんど塾」には本町通りの老舗 20 店が加盟している。食品関連と日用品などを扱う店が中心である。店の名前からうかがわれるよう昔ながらの商店が軒をつらねるが、「蔵」や情報発信など中心市街地の地の利を活かし、若い客層をもつかむ積極的な活動を行っている。

「新潟あきんど塾」加盟店(小売業)

店名	内容
(株)井村洋服店	婦人服小売
(有)コットンハウス39	服地小売
(株)坂内商店	衣料小売
(株)北光社	書籍小売
(株)横場精良堂	事務用品小売
(株)沢井商店	化粧品小売
(株)三日月	化粧品小売
(株)ホクセイ	酒類食品販売
(株)西巻商店	酒類小売
(有)星山米店	米小売
草間自転車商会	自転車小売
石川ラジオ店	家電修理小売

(出所:「蔵」HP)

「新潟あきんど塾」加盟店(サービス・製造業)

店名	内容
(有)シネ・ウインド	映画館
(株)堀川商事	遊技場
(有)ホッサイ	飲食業
(有)渡部商産	飲食店
(有)マミードライ	クリーニング
(株)竹林味噌醸造所	醸造業
(有)金子商会	公衆浴場
(有)新和産業	パソコンサポートサービス

(出所:「蔵」HP)

効果 多目的空間「蔵」を中心に情報発信

空き店舗利用の「蔵」は新潟特産品の販売やミーティングルーム、インターネットカフェ、イベント開催など文字通り多目的空間である。喫茶室もあり、気楽に憩える場所でもある。ホームページ「蔵」からはリンク集など新潟全体の情報が発信されている。

また、実に多彩かつ頻繁なイベント開催が特徴的であり、イベントとしては、寄席やお笑いライブ、グループ展、インターネット体験教室などが開催されている。運営サイドの苦労はしのばれるが常に刺激あふれる空間を創造していることが人気の秘訣である。

●ひとこと 「空き店舗対策補助事業」後の運営が課題

1998 年から実施されている「蔵」への家賃半額補助の事業は 2001 年まで 3 年間継続される。それ以降、採算などを含んだ新たな取組みが課題となっている。

類似事例：北野工房のまち（兵庫県神戸市／学校跡地建物利用のミニ商店街）

マイカル小樽（北海道小樽市／赤レンガ倉庫利用の街づくり）

問い合わせ先

協同組合 新潟あきんど塾

新潟市本町通 6-1113

TEL 025-227-4155

URL <http://www.kura.or.jp/>

若き市民達による町おこし「七尾フィッシャーマンズ・ワーフ」

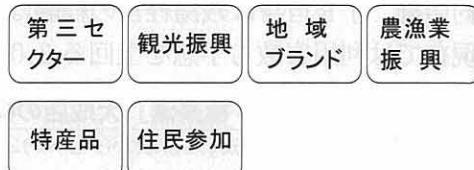
～ 石川県七尾市 ～

「七尾フィッシャーマンズ・ワーフ」は「能登食祭市場」とも呼ばれ、七尾市にある第3セクター「香島津」が経営する施設である。中は海産物の市場及びレストランなどで構成されており、いわば海の幸のメッカともいべき観光スポットである。土地は石川県と七尾市が提供しており、建物は石川県、七尾市、鹿島郡6町及びJR西日本、北陸電力など民間企業が出資している(株)香島津が運営している。

プロジェクトの概要

名称	七尾フィッシャーマンズ・ワーフ
所在地	石川県七尾市府中町員外13-2
事業主体	(株) 香島津 (かしまづ: 第3セクター)
出資構成	石川県7.4%、七尾市22.2%、鹿島郡6町4.4%、商工会議所4.1%、民間企業61.9%
施設面積	総面積3,520.25m ² 、延べ床面積5,384.25m ²
所有形態	土地: 石川県70%、七尾市30% 建物: (株) 香島津
資本金	1億3,500万円
初期投資額	15億5,000万円
施設構成	直営店: 能登名産工芸店、浜焼きコーナー、おおしき能登祭歳時館、研修室、パーラーのと 委託: 能登生鮮市場、能登グルメ館、日本通運(株)(宅配)

(出所: (株)香島津資料)



七尾フィッシャーマンズ・ワーフの全容

(出所: Fujimaru Land HP)

プロセス 5年間にわたる市民手作りの街づくり

「七尾フィッシャーマンズ・ワーフ」は海運が衰退し、さびれた町をなんとか蘇生させようとする若き市民達の運動が実ったものである。1988年に結成された「七尾マリンシティ協議会」が提案した、海を物流からのみではなく別の視点から捉える「七尾マリンシティ構想」が下地となっている。

前段階として「能登国際テント村」を開催し、成功したのをきっかけに「能登食祭市場」へとつながった。

プロジェクトの経緯

年/月	内 容
1986	発端となる「七尾市民大学講座」開催される
1988	「七尾マリンシティ推進協議会」誕生
1989	朝市「能登国際テント村」開催
1990	第3セクター(株)香島津設立 (資本金1000万円)
1991/1	「能登食祭市場(七尾フィッシャーマンズワーフ)」完成
1992/3	完成後1年10ヶ月で入場者80万人、売上11億円を超える

(出所: 「地域から日本を変える」HP)



七尾フィッシャーマンズ・ワーフ

(出所: Fujimaru Land HP)

ポイント 「能登食祭市場」にふさわしい海産物のメッカ

この「能登食祭市場」の一階には能登の祭りを3D画像で見られる「能登祭歳時館」、「能登生鮮市場」、「能登銘産・工芸館」があり、新鮮な魚介類などを宅急便で届けてくれる。2階には、レストランや食堂がある「能登グルメ館」が設置されている。



一階：「能登生鮮市場」
(出所:Fujimaru Land HP)



二階：「能登グルメ館」
(出所:Fujimaru Land HP)

効果 コンスタントに100万人が来場

開館当時の年間入場目標人数は45万人だったが、現在は年間100万人がコンスタントに訪れ、能登半島の海と陸との結節点「ふれあいゾーンの中心スポット」となっている。

「能登食祭館」は観光バスで来る観光客の会食コースにもなり、入場者の6、7割が県外者である。さびれたかっての港は新しい石川県の観光スポットとして収入の面でも大きく貢献している。



活魚・鮮魚だけでなく塩乾物など多彩な味が取りそろっている。(出所:(株)香島津資料)

●ひとこと 住民手づくりの町づくりが成功の鍵

地元の若手を中心とした「七尾マリンシティ協議会」は行政をも含む大きな組織に成長している。地域づくりには地元住民自らが参加するという鉄則を忠実に実行したところにこの「七尾フィッシャーマンズワーフ」成功の鍵があったといえる。

類似事例：やまぐち文化発信ショップ（山口県山口市／中心市街地活性化）
レインボープラン（山形県長井市／農林畜産施設による地域興し）

問い合わせ先

(株)香島津 能登食祭市場（七尾フィッシャーマンズ・ワーフ）
〒926-0041 石川県七尾市府中町員外13-1
TEL 0767-52-7071
FAX 0767-52-7072
URL <http://www.shokusai.co.jp/>

大正ロマン漂う川辺の再生「新町川ボードウォーク」

～徳島県徳島市～

1996年、むき出しのコンクリートで挟まれ、灰色の冴えない景色だった新町川とその護岸は、市民と行政の手によってヨーロッパ風の町並みとして生まれ変わった。毎週のパラソルショップ、そして定期演奏会などと賑わう水辺のオアシスは、多くの人の努力を経て実現した交流空間である。



整備が始まってから店が川に顔を向ける形で立て替え、改修を行った。床板はすべて NGS ハードウッド「イペ」材使用
(出所: NGS HP)

住民参加 親水空間 観光振興



週末にはパラソルショップが立ち並び大勢の客が訪れる
(出所: 徳島市 HP)

プロセス 市民の活動を行政がバックアップ

徳島市の中心部を流れる新町川は、かつては流域の工場・家庭からの排水で魚も住めないほど汚染されていた。この惨状を見兼ねた市民が川の清掃をはじめたのがきっかけとなり、1990年に有志10人によって「新町川を守る会」が結成された。

このボードウォーク事業は、行政側がそれを評価し新町川のほとりに水際公園や板張りのボードウォークを整備し、その後隣接する公園・商店街などを同一デザインで整備を進めたものであり、2000年には「新町川を守る会」が地域づくり大臣賞に選ばれた。

最近では沿道のビルも川に顔を向け、ファサードを設けるなど着実に街並みに変化が現れている。最近では川べりに雑貨やアクセサリーを売るパラソルショップが軒を連ね、佇んで気持ちの良い空間となっている。

新町川ボードウォークの概要

1989	徳島市が水際公園を整備
1990	有志10人で「新町川をまもる会」を結成、清掃を月に2回行う
1991	東新町1丁目商店街振興組合がボードウォークのプランを作成
1992	県、市と交渉の結果、遊歩道設置案が協議される
1996	新町川ボードウォークがオープン
1999	市と民間が実行委員会を作り河岸でのパラソルギャラリーやカフェテラスを始める。
2000	「新町川を守る会」が地域づくり大臣賞に選ばれる

ポイント 元気な市民による多彩なイベント

新町川ボードウォークは、国・県・市の補助を受け、約2億円を投じて地元商店街が設置、その後、県・市がそれぞれ両端の橋詰めに広場を設けた。いまでは様々な関係者がボードウォークの賑わいを作るために協力している。特に地元の商店街や非営利団体の活動は活発で、毎週土日に行なわれているパラソルショップ（公募で出展料は3,000円）の他、コンサートやファッションショー、無料周遊船の運航などが行なわれている。

また、新町川ボードウォークの整備にならい、市内の商店街も同様のデザインで整備を進め始めている。



新町川と助任川に囲まれた通商「ひょうたん島」の周遊船は、一部市の委託を受けて毎日無料で運行している
(出所:徳島市HP)



隣接する新町川ボードウォークと同じ材質を使用し、段差のないテラス
(出所:NGS HP)

効果 地道な努力が観光客の足を向けさせた

川を愛する有志たちによる川の清掃から始まった活動は、「新町川を守る会」となり地域づくり団体として自治大臣賞を受賞するまでになった。週末になると地元住民のみならず、県内外から多くの観光客がおしよせている状況であり、また観光客以外にも町づくりに興味を持つ視察団も訪れるなど、地道なこれまでの取組みが改めて評価されている。

●ひとこと ソフト面の充実が大きな課題

ある程度の成功は収めているが、一般的に官が係わる空間では、店舗設置に対して条件が厳しく、行政の許可を取らなければイベント活動が行えないということが指摘されている。本ケースでも、今後は店舗設置の条件緩和や民間主導のイベント開催などソフト面の充実が課題となるかもしれない。

類似事例：グラウンドワーク三島（静岡県三島市、市民・行政・企業のパートナーシップで身近な環境改善を進める）

問い合わせ先

徳島市役所経済部 観光課

〒770-8571 徳島県徳島市幸町2-5

TEL 088-621-5232

URL <http://www.city.tokushima.tokushima.jp/>